天竜川勉強会　～天竜川とともに生きる～　開催報告

国土交通省
中部地方整備局　浜松河川国道事務所

佐久間ダムが完成して今年で60年を迎えることを機に、平成28年10月19日（水）佐久間歴史と民話の郷会館において「天竜川勉強会～天竜川とともに生きる～」を開催しました。

勉強会には約190名の方が参加し、電源開発（株）佐久間電力所の坪田所長、京都大学防災研究所の角教授、（一財）土木研究センターなぎさ総合研究所の宇多所長の講演を聴講し、佐久間ダムの役割や天竜川が海にもたらす土砂の効果について学びました。

講演の様子

坪田所長

角教授

宇多所長

案内リーフレット

勉強会は、当所と浜松市の共催で、電源開発(株)、佐久間地区自治会連合会、佐久間ダム（非）漁業協同組合、NPO法人がんばらまいか佐久間の方々にご後援を頂き開催しました。

講演では、坪田所長が佐久間ダムが担う役割、角教授は佐久間ダムに堆積した土砂の処理、宇多所長からは天竜川と密接に関係する遠州灘海岸の侵食について、天竜川とともに生きる視点も交えてお話し頂きました。

天竜区長の開会挨拶

満員の会場

天竜川勉強会　～天竜川とともに生きる～　開催報告

国土交通省
中部地方整備局　浜松河川国道事務所

勉強会と併せてパネルと龍神の展示を行いました。
佐久間ダム建設当時の写真をご覧になり、懐かしむ方や思い出話をされる方が多くみえました。

パネル展示

【佐久間ダム龍神まつり】
佐久間ダム龍神まつりは、昭和32年10月28日の天皇、皇后両陛下の行幸啓を記念し、毎年この時期に開催されています。
龍神の舞は、佐久間ダムと佐久間地域の繁栄を祈念し工事犠牲者の霊を慰めるために奉納されます。
竜神の胴体は、行幸啓の際に皇居のお堀に棲む鯉が佐久間ダムの守護神として御下賜されたことを記念し、鯉の鱗を纏っています。
太鼓、カネ、ドラ、チャッパのお囃子をバックに縦横に舞う龍体は重さ約60kgで、地元保存会の会員7名が操作します。
今年の舞は、10月30日（日）の佐久間ダム竜神まつりで奉納されます。

佐久間ダム竜神まつりで使用されている龍神